種市小学校　研究部だより

熱心ノ泡沫

種市小研究部（永井）
Ｈ２４．９．１８
ＮＯ．８

非連続テキストと文章とをしっかりと結びつけて読みとらせようとした授業でした

～目的意識がはっきりとした単元構想～

【「アップとルーズで伝える」４年１組　授業者　玉澤　初代】

＜先生方から＞ワークショップ型の協議内容から

◇単元構想

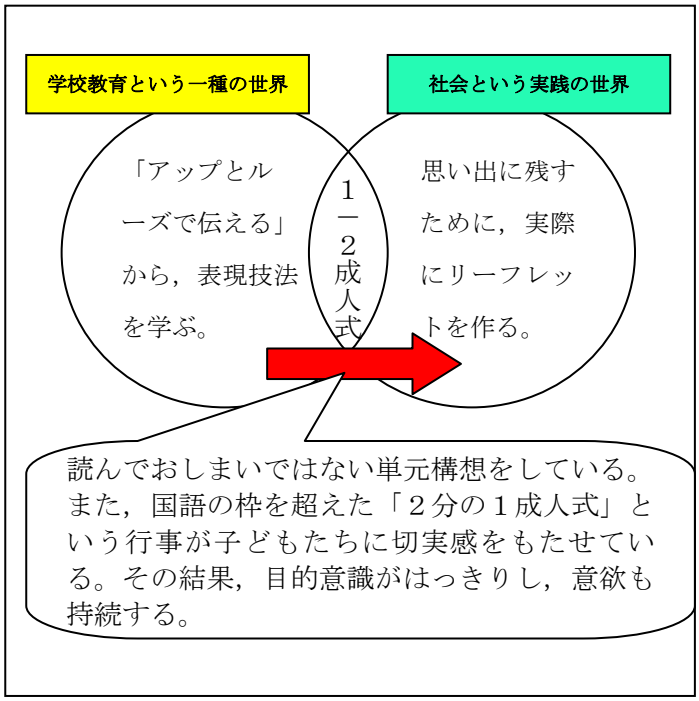
●『２分の１成人式において，４年生の思い出リーフレットを作成する』というはっきりとした目的があってよかった。

◇丁寧に進められていた

●一つ一つの言葉を大切にしている。
Ｂ問題を意識した授業を目指そうとしていたのが感じられた。

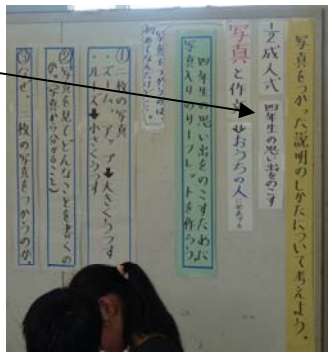
◇系統性を意識した指導

●５年生の学習にも，写真（非連続テキスト）と結びつけて読みとる学習がある。本時の授業は，その土台ともなるべきものであった。



◇掲示

●教室掲示に目指すところ（単元のゴール）があり，効果的であった。



◇子どもたちの意欲を上手にかきたてていた

●「～のところが○つあります。」と，具体的な数字を挙げたいたことで，低位の子どもたちのヒントにもなったし，「見つけるぞ。」という思いをかきたてることができていた。

◇山場作りがあるとよかった

●アップを読み取る際に，もっと時間をとって詳しく読み取らせてもよかった。
目線に着目したところをもっと深めていけば，子どもたちの学びが盛り上がったように思う。取り扱う内容はよかったと思うので，軽重のつけ方を工夫していくとよいと思った。

◇振り返り

●記号でもよいので，本時の授業に対する自分の振り返りをさせたい。

＜県北教育事務所　主任指導主事　今西　顕隆先生からの助言＞

【学びたい点】

・付けたい力を明確にしようとしていた。
・第３段落（①②段落を抽象的にまとめた段落）をしっかりと読み取るために，①②段落を読む授業展開ができていた。
・単元のゴールである「リーフレット作り」を見通して，モデルをしっかりと提示していたことがよい。また，そのモデルを使ってアップとルーズを使い分けるよさを再度学ぶことができていた。同時に，読み取ったことの妥当性を確かめることができていた。
・非連続的テキストを読み取る際に，しっかりと文章と写真を結びつけていた。

【今後の課題点】

・子どもたちに発言をさせる機会を増やす。子どもたちの発表の方が集中して聞ける。ペア学習は誰もが説明する機会があるので効果的な一つの手法と言える。
・思考のために，自力解決の時間を確保すべきである。

【今後，全学級で意識してもらいたいこと】

・読み取るにも様々ある。例を二つ挙げるとするならば，一つは作品を読む。もう一つは作品の形式を読むである。
・教材の特性にあった指導をしていってほしい。

　複合単元の位置づけ

　　【３年生】すがたをかえる大豆

　　→形式をまねて書いてみる。

　　【アップとルーズで伝える】

　　→表現技法をまねて書いてみる。

　　※４年生は，形式をまねるのではなくて表現技法をまねる。

・段落番号は，段落構成をとらえるためにも効果的な手立てと言える。
・「読む力」とは抽象的で曖昧。

　具体的な表現にしなければならない。

青山由紀先生の資料から

◆文学的文章の読み

①基本構造をとらえる。
②物語構造をとらえる。
③視点をとらえる。
④人物の変容をとらえる。
⑤技法とその効果をとらえる。
⑥主題をとらえる。

などである。

これらの中から必要な読みを，学年や教材に合わせて行っていく必要がある。

＜佐藤副校長先生の授業感想＞

・情報量の多さに驚きました。けれども副校長先生のリードに子どもたちはしっかりとついていっていました。
・子どもたちが楽しみながら授業をする姿を見て，関心をもたせる工夫がとても大切であることを痛感しました。子どもとともに楽しめる授業を作りたいと思いました。
・「赤川くんのこほっぱ跡」という教材はとても魅力的だと感じました。こういう「？」を日常から拾い，どのように教材化するか学ぶことができました。
　また，今回の授業のように教科書から離れた内容を様々観てみたいと感じました。
・大変すばらしく感動しました。つけなければいけない力を授業を通して見せていただいたように思います。これからもご指導よろしくお願いします。